

親亡きあとの支援を考える

成人期の発達障害者の支援は必要性の高まりとともに、発達障害専門プログラムなど広範にわたる支援へと拡大しつつあります。社会参加の機会を得ていく方も増えつつある一方で、その社会参加の支えとなっているのは同居家族による生活面全般の援助であることが多くあります。

また、生活力に関するアセスメントツールやプログラムは存在するものの、財産管理の方法や福祉サービスの利用の仕方等に関して親を対象に作成されているものも多いのが現状です。

このような状況で、高齢の親の体調不良や死去により、身体的・精神的に不安定になり就労や社会参加の継続が困難になったり、ひきこもってしまうケースが散見されます。実際に問題が生じてから対処を考えることが多いものの、生活力は一朝一夕に獲得できるものではないため早期の介入が有効であると考えられます。

今年度は、成人期の発達障害者の「親亡きあとの支援を考える」をテーマにシンポジウムを行い、親亡きあとの支援実践報告等を通じて、いつかはやってくる親亡きあとの支援について皆様と一緒に考えたいと思います。

今後の実践に役立てていけるよう、ぜひご参加ください。

■日時：令和6年2月19日（月曜日）

午後2時から午後4時20分まで（受付開始 午後1時30分）

■主催：東京都

■対象：区市町村及び発達障害に関わる支援機関の相談支援員等

■形式：Cisco Webexによるオンライン開催

※お申込みいただいた方宛てに後日URL等を送付いたします。

<プログラム（予定）>

13:30 受付開始

14:00 開会挨拶 東京都福祉局障害者医療担当部長 石黒 雅浩

14:05 **【第一部】 基調講演・実績報告**

昭和大学発達障害医療研究所 所長 太田 晴久 氏

昭和大学発達障害医療研究所 精神保健福祉士 五十嵐 美紀 氏

15:20 休憩（10分）

15:30 **【第二部】 パネルディスカッション**

《座長》

公益財団法人神経研究所理事長 加藤 進昌 氏

《パネリスト》

・昭和大学発達障害医療研究所 所長 太田 晴久 氏

・昭和大学発達障害医療研究所 精神保健福祉士 五十嵐 美紀 氏

・一般社団法人ウィステリアサポート協会 代表理事 石井 文恵 氏

・公益財団法人神経研究所 発達障害医療コーディネーター 桑野 大輔 氏

《コメンテーター》

東京都福祉局障害者施策推進部精神保健医療課課長代理 門倉 あゆみ

16:10 質疑応答等（10分）

16:20 閉会

【問合せ先】

東京都福祉局障害者施策推進部精神保健医療課生活支援担当

電話 03-5320-4464